



て、神の存在を考えていた。だけど、神はおられる。たとえ世界中の人間が神を否定したって、神は厳としておられるんだ。神様、神様、感謝します！

ナレーション

涙が流れて止まらなかった。次の日、目覚めた時、すべてのものが彼の目には光を放って見えた。飛ぶようにして先輩の家に行き、一部始終を話し終えた時、先輩は静かにこう言った――。

先輩

貴重な体験だったね。宏君、“疑う”ことも、“信じる”ことの一部なんだよ。

<完>